

令和6年度 さいたま市地域スポーツ・文化クラブ活動体制整備研究協議会

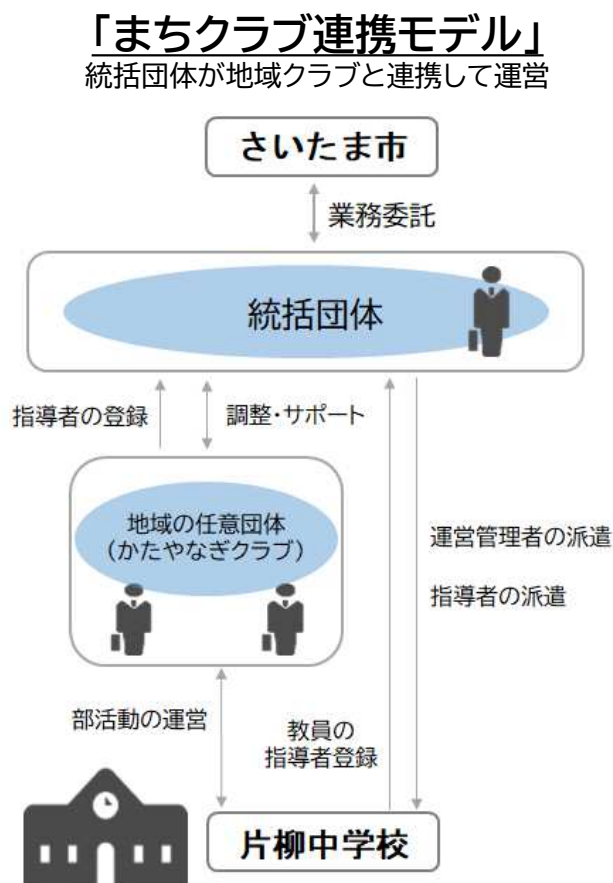
令和7年3月24日(月)
ときわ会館

本日の内容

- 1 令和6年度の取組【モデル校】
- 2 令和6年度の取組【中学校長会との連携】
- 3 令和7年度の取組について
- 4 令和7年度の組織について
- 5 部活動地域展開に向けたロードマップ（修正版）

1 令和6年度の取組【モデル校】

●令和6年度は、モデル校3校で検証を進めました。



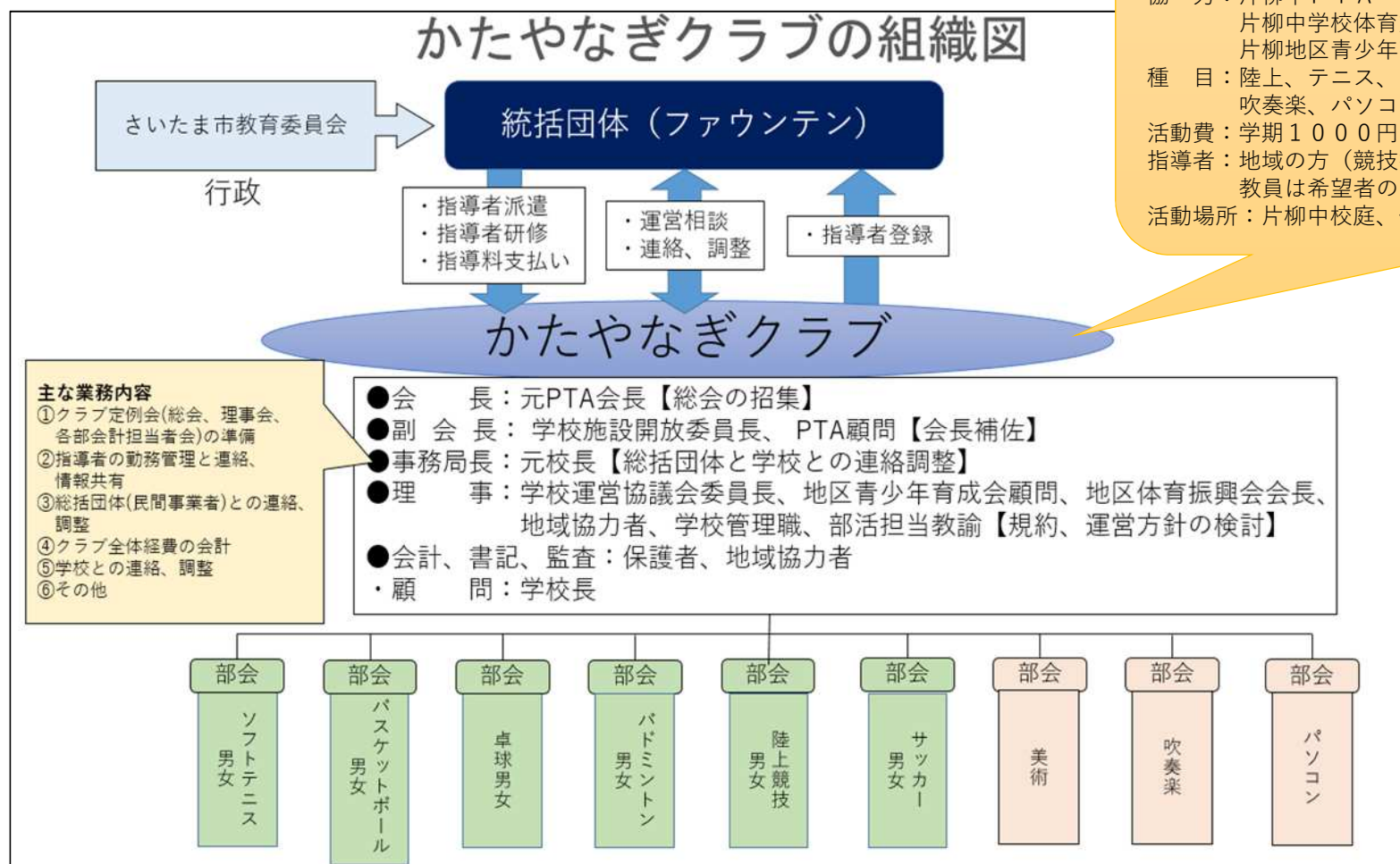
※総合型地域SC連携モデルを想定していたが、調整がつかず、実施できなかった。

1 令和6年度の取組【モデル校】

(1) 「まちクラブ連携モデル」

片柳中学校

<取組の具体的内容>



主 催：かたやなぎクラブ（令和5年から活動開始）
 協 力：片柳中PTA 片柳小・中合同コミュニティスクール、
 片柳中学校体育施設開放委員会、
 片柳地区青少年育成会、片柳地区体育振興会
 種 目：陸上、テニス、バスケット、卓球、バドミントン、サッカー、
 吹奏楽、パソコン、美術
 活動費：学期1000円（指導費は市教委負担）
 指導者：地域の方（競技指導者、競技指導資格保有者、卒業生等）
 教員は希望者のみクラブの指導者として活動（兼職兼業願）
 活動場所：片柳中校庭、体育館、武道場、地域施設等

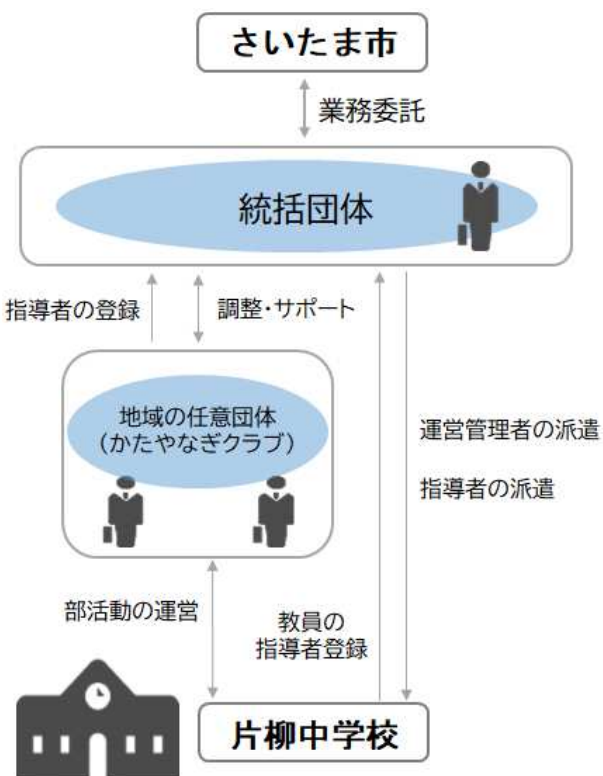
かたやなぎクラブ（週5日以内）
 平日2時間、土日3時間程度

片柳中部活動
 最大平日3～4日 2時間程度

1 令和6年度の取組【モデル校】

(1) 「まちクラブ連携モデル」

片柳中学校



「まちクラブ連携モデル」 統括団体が地域クラブと連携して運営

片柳中学校

設置部活

運動部	文化部
10部活で実施	3部活で実施
サッカー(男女) ソフトテニス(男女) 卓球(男女) 陸上(男女) バドミントン(男女) バスケットボール(男女)	吹奏楽 美術 パソコン

<指導者の内訳>

総指導者数	21人
兼職兼業の教職員	13人 (62%)
部活動指導員等	5人 (24%)
統括団体が確保した指導者	3人 (14%)

<成果>

- まちクラブの組織の作成
- まちクラブ型の地域移行プランの作成

<課題>

- 持続可能な組織の構築

<今後へ向けて>

- ・指導者と生徒・保護者間の情報共有や必要に応じた助言、トラブル解決などに対応するため、教員出身者の事務局長（運営管理者）を継続して任用できたらよい。
- ・受益者負担を考えていく中で、財源を確保する手段や、会計事務の仕組みづくりが必要。

1 令和6年度の取組【モデル校】

(2) 「統括団体単独モデル」

柏陽中学校



「統括団体単独モデル」
学校域を1つの統括団体で運営

柏陽中学校

設置部活

運動部	文化部
11部活で実施	1部活で実施
野球 サッカー 陸上 ソフトテニス(男女) 卓球(男女) バレーボール(男女) バスケットボール(男女)	吹奏楽

<指導者の内訳>

総指導者数	23人
兼職兼業の教職員	17人 (74%)
部活動指導員等	0人 (0%)
統括団体が確保した指導者	6人 (26%)

<成果>

- 教員以外の指導者による技術の向上
 - ※男子バレーボール部 関東大会出場
 - ※陸上競技部、卓球部男女 県大会出場
 - ※サッカー部の充実した活動
- 教員の負担が軽減

<課題>

- 統括団体との意見交換ができる連絡体制の構築

<今後へ向けて>

- ・バレーボール等で拠点校部活動を進めることを検討していきたい。
 - ※城南中学校・西原中学校・川通中学校を想定している。

1 令和6年度の取組【モデル校】

(2) 「統括団体単独モデル」

美園南中学校



「統括団体単独モデル」
学校域を1つの統括団体で運営

美園南中学校

設置部活

運動部	文化部
18部活で実施	2部活で実施
野球 サッカー バレーボール(男) バスケットボール(男女) 卓球(男女) ソフトテニス(男女) バドミントン(男女) ハンドボール(男女) 陸上(男女) 剣道(男女) ソフトボール	吹奏楽 SSTC(科学)

<指導者の内訳>

総指導者数	36人
兼職兼業の教職員	25人 (70%)
部活動指導員等	4人 (11%)
統括団体が確保した指導者	7人 (19%)

<成果>

○教員の負担軽減

<課題>

●統括団体、総合型スポーツクラブとの意見交換ができる連絡体制の構築

<今後へ向けて>

- ・外部指導者の部活動ガイドラインの理解の充実
- ・総合型地域SCとの連携を模索していきたい

1 令和6年度の取組【モデル校】

教育委員会では、モデル校と連携し、検証を進めました。

教育委員会とモデル校との関わり

●教育委員会による学校訪問

- ・事業開始前の学校への説明（4，5月）
- ・土日の活動の巡回訪問（月2回程度）



【柏陽中陸上部】

●統括団体との連携

- ・兼職兼業を希望する教職員の把握と情報共有（R 6：約7割が希望）
- ・配置する指導員の調整（部員数と指導員配置人数の調整）

●モデル校との情報共有

- ・学校からの問合せ対応（指導員の配置、運営上の課題の相談など）
- ・意見聴取

1 令和6年度の取組【モデル校】

モデル校での取組では、以下のような成果がみられました。

○指導者の確保

- ・指導者の発掘については、統括団体が指導者を募集したり、部活動指導員を指導者として充てたりするなどして、必要な人材を確保。
- ・モデル校の教職員に対し、休日の指導の希望を取り、休日の指導を希望する教職員は、兼職兼業を申請することで、統括団体の指導員として従事。
- ・上記の取組により、希望する45部活動全てに指導者を配置。

○外部指導者※による専門的な指導 ※兼職兼業をした教職員以外の指導者

- ・外部指導者の指導を受けた生徒の内、77%が「技術が上達したと感じる」と回答。

○指導者に対する研修の実施

- ・年度当初に救急救命講習を行うとともに、コーチングを意識した指導をするよう、巡回指導を実施。

○統括団体による管理・運営

- ・メールでの連絡体制、専用アプリでの労務管理、報酬支払い体制を構築。

○教職員の負担軽減

- ・教員の49%が、本事業について「負担軽減につながった」と回答。

1 令和6年度の取組【モデル校】

モデル校での取組では、課題や今後の検討事項も明らかになりました。

●全市展開に当たり市内の地域状況の違いから生じる課題

- ・ **【郊外部】** 生徒数の減少に伴い、部活動を維持することが困難になってきており、合同部活動の増加、休部や廃部の検討の必要性が出てきている。
- ・ **【都市部】** 生徒数が増加している学校もあり、単独での部活動の実施は可能だが、部活動の数が多いため、地域移行に伴う指導者や活動場所の確保などが課題。

●今後さらに検討すべき事項

①指導者の質や量の確保

- ・ 今後、本市全58校の休日の部活動を統括団体から派遣された指導員で運営した場合、相当数の指導員が必要となるため、質の高い指導員を必要数確保できるかが不透明。
- ・ モデル校3校においては、兼職兼業を希望する教員が7割近いため、統括団体の指導者確保の負担が小さい。兼職兼業を希望する教員が少ない学校で実証研究を進める必要がある。

②複数の統括団体での検証

- ・ 本市の規模の場合、複数の統括団体で運営することが想定されるため、統括団体ごとの指導者の質、運営方法や運営費の差など、統括団体間の違いを検証する必要がある。

③合同部活動や拠点校部活動の実施検証

- ・ 合同部活動や拠点校部活動を実施する際の運営のあり方や生徒の活動の質の変化について検証する必要がある。

1 令和6年度の取組【モデル校】

●今後さらに検討すべき事項（続き）

④平日と土日の連携

- ・平日も含めた部活動地域移行とならない限りは、土日と平日の指導者の違いにより、様々な問題が生ずる。

（例）怪我の問題、いじめの問題、体罰・暴言等不適切な指導などの問題 等

⑤受益者負担のあり方の検討

- ・運営資金の確保や費用負担の考え方の整理（受益者負担額や受益者負担の仕組みづくり）の検討が出来ていない。
- ・活動時の保険について、部活動であれば「日本スポーツ振興センター災害給付金制度」が適用され、見舞金や怪我の適用範囲によっては卒業後も補償が付く。一方、部活動が地域移行した際は別途保険に入る必要があり、保護者にとっては、適用範囲や手続き方法の違いから費用面、手続き面で新たな負担が生じる。

⑥市民への情報提供

- ・部活動地域移行について、方針や計画、進捗状況の情報提供が、保護者や地域、各学校に対して出来ていない。

2 令和6年度の取組【中学校長会との連携】

教育委員会は、中学校長会とも連携して、検証を進めました。

<中学校長会との協議>

- 1 中学校長会との検討会 年2回実施 教育研究所、市役所第二別館
(7/22, 11/18)
- 2 部活動改革検討委員会（校長会が今年度設置） 随時実施
 ※委員7名 市中学校体育連盟会長、副会長、モデル校校長 等
- 3 中学校長会研究協議会において、特別活動・部活動部が実施したアンケート
 結果についての協議に対する指導・助言 2月6日 教育研究所

2 令和6年度の取組【中学校長会との連携】

中学校長会から、以下のような課題の提示や提案がありました。

<課題>

①人材について

- ・適切な指導者の確保
- ・指導者の指導力の担保
- ・教職員への希望調査の未実施

②財源（予算・受益者負担）について

- ・予算の確保と保護者の金銭負担

③運営団体や地域との連携について

- ・受け皿となる地域団体の確保
- ・今後の方針が不明

④トラブル対応について

- ・トラブル対処
- ・責任の所在の明確化
- ・学校の施設管理、事故やトラブル発生時の責任の所在の明確化

など

<提案>

①人材について

- ・市教育委員会に担当部署を設置
- ・地域の関連団体と連携した人材確保
- ・指導者への研修の実施
- ・教職員への希望調査の実施

②財源（予算・受益者負担）について

- ・予算の確保と保護者の金銭負担

③運営団体や地域との連携について

- ・地域や保護者への広報
- ・具体的なロードマップの提示
- ・学校地域連携コーディネータの活用

④トラブル対応について

- ・市にトラブルの相談窓口の設置

など

3 令和7年度の取組について

中学校長会で出された課題とモデル校での課題を整理し、以下の通り取り組みます。

<令和7年度の方角性>

- 「まちクラブ連携モデル」の確立に向けて、運営資料のマニュアル化など、検証を進めます。
- 課題に対応する形でワーキンググループを再編し、モデル校と連携して課題解決に向けた検討を進めます。

3 令和7年度取組について

国のガイドラインから

- 地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。
- 地域の持続可能で多様な環境の一体的な整備
- 地域での多様な体験や様々な世代との豊かな交流等を通じた学びなどの新しい価値の創出

中学校校長会からの提案

- 中学校チャレンジスクール事業を部活動地域展開のシステムへ変革
- 学校地域連携コーディネーターが土日の活動を運営するシステムの確立
- 学校運営協議会を絡める新たな体制

モデル校からの提案

- 平日と休日の連携の課題解決に向けて、学校に関わりのある人が管理運営に関わる



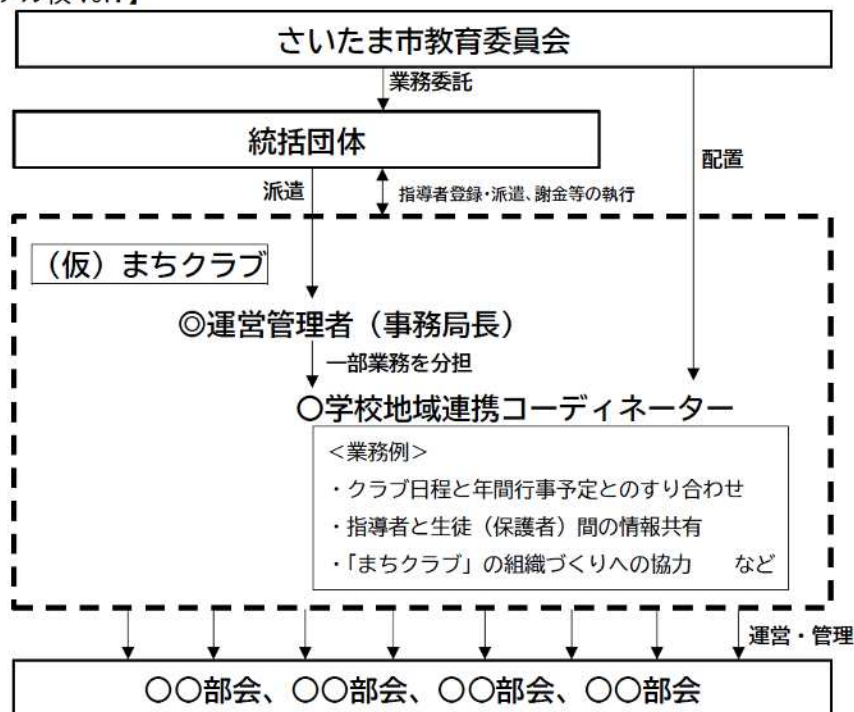
「まちクラブ連携モデル」を検証します。

3 令和7年度の取組について

(1) 「まちクラブ連携モデル」

- 今後の全市的な部活動地域展開を見据え、「まちクラブ」の管理運営のマニュアル化を目指す。
- モデル校に担当指導主事を配置し、学校、統括団体、教育委員会で検討を進める。

【R7モデル校 ver.】

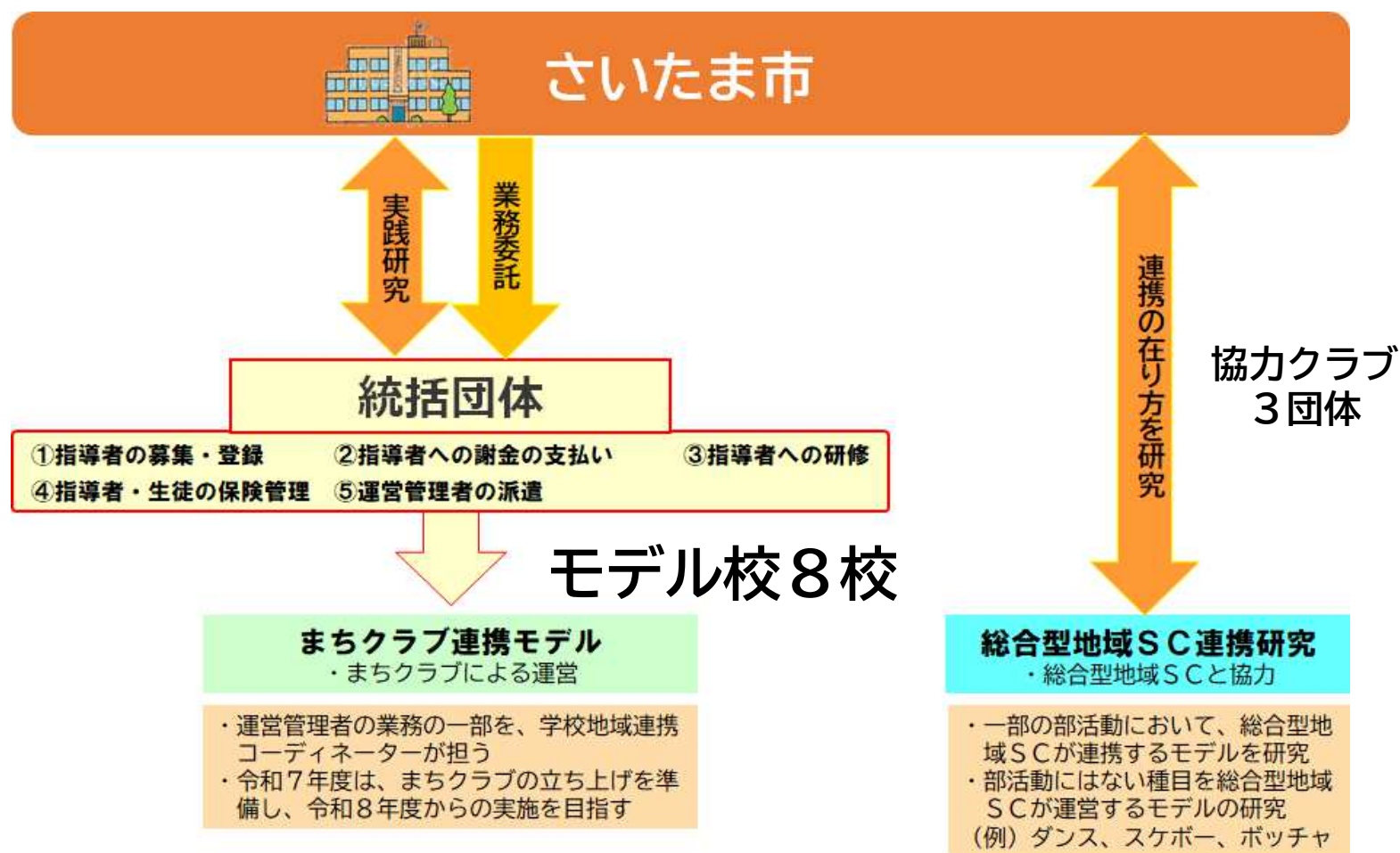


【市の最終形 ver.】



3 令和7年度の取組について

- 持続可能な運営体制構築のため、まちクラブ連携モデルの検証に集中的に取り組めます。
- 総合型地域ＳＣ連携モデルについては、関係団体と話し合いを続けてまいります。



3 令和7年度の取組について

まちクラブ連携モデル

・まちクラブによる運営

モデル校8校

片柳中

・拠点校部活動（大宮八幡中）

小規模

（9学級）

美園南中

・大規模校

大規模

（21学級）

大宮八幡中

・拠点校部活動（片柳中）
・兼職兼業を希望する教員少

適正規模

（13学級）

土合中

・大規模校
・兼職兼業を希望する教員少

大規模

（26学級）

柏陽中

・拠点校部活動
（城南中、西原中、川通中）

小規模

（9学級）

大宮東中

・兼職兼業を希望する教員少

適正規模

（12学級）

A

B

総合型地域S C連携研究

・総合型地域S Cと協力

浦和スポーツクラブ

（近隣校）

レッズランドスポーツクラブ

（近隣校）

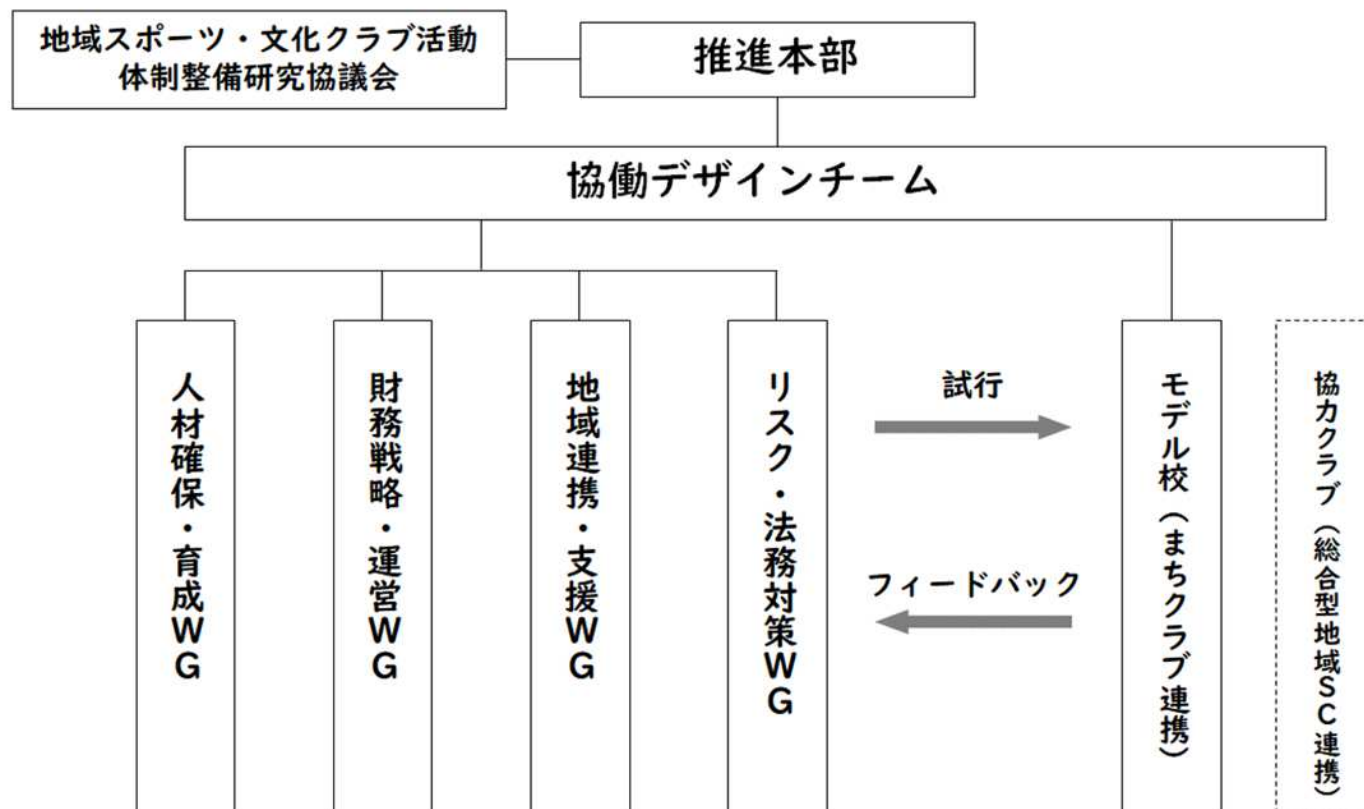
浦和美園スポーツクラブ（通称：うらら）

（近隣校）

協力クラブ
3団体

4 令和7年度の組織について

<全体図>



<組織概要>

地域スポーツ・文化クラブ活動体制整備研究協議会

年3回

子どもたちが、地域の中で自分の興味に応じてスポーツや文化活動を楽しむ環境を構築するための実践研究を行う。

○地域クラブ活動の持続的な運営の在り方について、報告・説明を行うとともに、広く意見を聴取

推進本部

年4回

プロジェクト全体の方向性を調整し、戦略的な課題の解決を図る。

- ①全体戦略や方針の策定と承認
- ②協働デザインチームからの進捗報告を受けて課題を検討
- ③市長部局や関係団体と連携・協働するための調整

協働デザインチーム

月2回

プロジェクト全体の横断的調整を担い、WGの進行状況をモニタリングし、日々の運営をサポートする。また、現場で発生する課題への迅速な対応を図り、全体の一体感を維持する。

- ①各WGの活動を横断的に調整し、必要に応じて連携を促進
- ②実務的な課題の収集と初期対応を実施し、推進本部へ報告
- ③研究協議会の準備と運営を主導し、情報の集約を実施

4 令和7年度の組織について

- 令和7年度は、モデル校で明らかになった課題や中学校長会から示された課題や提案に対して、以下のワーキンググループにおいて検討を進めてまいります。

人材確保・育成WG

月1回程度

地域クラブ活動を担う指導者の確保と育成を通じて、地域内の指導体制の安定と持続可能性を追求する。

【検討事項】

- ①潜在的指導者のリサーチ及びリスト化
- ②人材バンクの運用及び登録情報の管理
- ③指導者向け研修プログラムの企画・実施

地域連携・支援WG

月1回程度

地域団体や住民との協働を通じて、地域クラブ活動を支える地域コミュニティを形成する。

【検討事項】

- ①地域団体とのパートナーシップの確立及び連携体制の構築
- ②地域住民への広報活動及びフィードバック収集
- ③部活動の受け皿団体に向けたサポートプランの立案・実施

財務戦略・運営WG

月1回程度

地域展開を支える持続可能な財務体制を構築し、地域クラブ活動の円滑な運営を支援する。

【検討事項】

- ①財政支援スキームの企画及び透明性の高い資金管理の実施
- ②保護者負担の仕組みや指導者謝金の適切な運用体制の整備
- ③各地域クラブ活動の資金計画及び収支報告の管理・監督

リスク・法務対策WG

月1回程度

法的整合性とリスクマネジメントを通じて、部活動地域展開の信頼性と安全性を確保する。

【検討事項】

- ①トラブル発生時の対処フレームワークの確立
- ②責任所在の明確化による法的リスクの最小化
- ③保険や大会の在り方等、地域展開のガイドライン策定

5 部活動地域展開に向けたロードマップ（修正版）

学校部活動から地域クラブ活動への地域展開に向けたロードマップ【さいたま市が目指す理想】

